

にちなん町民大学における講和から（「目南の森から地球を動かす」）

1-1 地球環境・資源を考える

(NPO法人 フォレストアカデミージャパン 副理事長)

石油というのは、地球が300万年かかったものを、だいたい一年で消費しているという言葉がありました。そういう300万対1というような貴重な資源・財産を簡単に使っているのか。そんな石油の問題もあります。先般、再生エネルギーによる電気料の買い取り価格の委員会がありました。一方、発電コストという面で見ると、ソーラー・太陽光が49円、その他、風力・水力が19円前後、火力、これがいちばん安いということで10円を切るような、これは、KWHあたりです。もっとも安いのは地熱発電ということであります。原子力が5円・6円といった数字になっていますけども、これは当然事故がなかったことが前提ですが、ちょっと論外ではないか。したがって、この前の新聞に出ていました買い取り価格は当然太陽光のほうが高くなるということです。

もう一つは、資源です。エネルギー需要の供給源から見ますと、年代を経て、石油が全体的に落ちてきております。石炭については若干増えつつある、天然ガスも若干増えつつある。

日本は資源のない国です。この資源のない国がどうやって、これから経済活動を維持していくかということがこれから問題になると思う。石油は中東からでありまして、ホルムズ海峡封鎖がどういう影響するかというようなこともあり、常に気を配っておく必要がある。

(次号に続きます)

說明資料

地球環境に目を向けて

50年後、100年後にどんな地球を残せるか。
それは、今を生きる私たちにかかっている。

⇒ 次世代に対する責任

温度が2度上がれば25億人が食糧危機……EU発表 ⇒環境難民

影響が現れる前に対処すべき
資源のない日本が率先すべき

心技体 心:心がけ、技:技術、体:仕組み

「多くを知り自制できる民」……韓国ドラマ「世宗大王」
行へば「義務」の放棄、与えられるべきという「権利」の主張

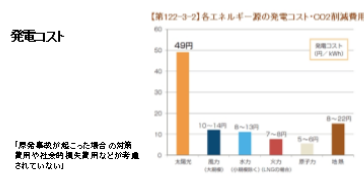
↓
植木の放棄と商務の主張

エネルギー資源から見た地球

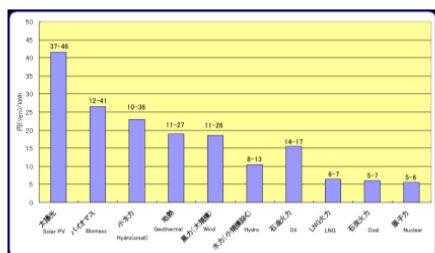
エネルギー資源の可採年数

石油 41年 天然ガス 65年 石炭 155年 ウラン 85年

発電コスト

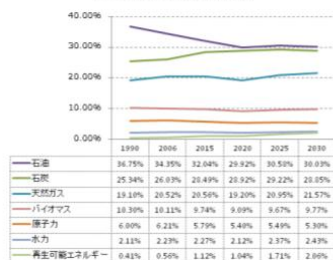


発電コスト比較



エネルギー需要の供給源

世界のエネルギー需要の供給源割合



電力需要の供給源

世界の電力需要の供給源割合



日本のエネルギー事情

自給状況 日本資源自給率 4% (→19%)

発電のための資源別状況

